

令和2年度ネット依存度スクリーニングテストの結果

(静岡県教育委員会社会教育課)

1 概要

実施時期	6月
対象	県内の小学6年生 945人(11校)
テストの種類	3種類(Kスケール、IAT、DQ)

2 結果

	児童数	依存リスク該当者	
		人数	割合
小学校	945	310	32.8%
		(中リスク) 269	(中リスク) 28.5%
		(高リスク) 41	(高リスク) 4.3%

【依存リスク該当者】

2種類のテスト(Kスケール・IAT)において、中リスク又は高リスクのいずれかに判定された児童

- ・中リスク：要注意。ネット・スマホの使い方をもう一度よく考えなおす必要あり
- ・高リスク：早急な改善が必要。ネット依存傾向が非常に強い。

専門医療機関の援助が必要

<主な傾向>

- ①長時間利用傾向が非常に強い。
- ②メンタル面への影響が強く、高揚感を得るために使用している。
- ③ネット・スマホの使用による成績低下を実感しているが、睡眠への影響はあまり感じていない。
- ④SNS依存が強く、新しい仲間を作ることが多い。

3 中学生・高校生との比較

- ・依存リスク該当者の割合は、高校生が最も高く、次いで小学生となった。
- ・中学1年生と小学6年生の依存度は0.1%差となり同程度の依存状況と言える。
- ・中学生と小学生の「SNSで新しい交友を求める傾向割合」を比較すると小学生の方が10%高く「スマホの持ち始め」に新しい交友を築くことが多いと考えられる。
- ・「不安を軽減するために使用する傾向割合」、「SNS依存傾向」は、小学生<中学生<高校生となり、年齢が上がるにつれて高くなる。
- ・SNSで交友を広げすぎたり、SNSの情報を過信することが、「使用できない場合の不安感」に繋がっていると考えられる。

[参考 1]

○令和元年度 中学生・高校生の結果 (Kスケール・I A T)

	生徒数	依存リスク該当者	
		人数	割合
中 学 校	1,118	366	32.7%
		(中リスク) 322 (高リスク) 44	(中リスク) 28.8% (高リスク) 3.9%
高 校	879	475	54.0%
		(中リスク) 421 (高リスク) 54	(中リスク) 47.9% (高リスク) 6.1%
計	1,997	841	42.1%
		(中リスク) 743 (高リスク) 98	(中リスク) 37.2% (高リスク) 4.9%

[参考 2]

○DQの結果

	ネット依存が疑われる児童・生徒	国 (H29 年度)
小 学 校	61人 (6.5%)	—
中 学 校	71人 (6.4%)	10.0%
高 校	121人 (13.8%)	16.1%